



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.21

新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の分類で、結核と同じ二類感染症相当として指定感染症となっていました。見直しされることが検討されています。婦人会では、その時々で明らかになる情報を取り入れつつ活動しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

〈宮婦連健康を守る母の会〉

宮城県では、布マスクの作成や、千羽鶴の作成などを行っています。

主にマスクについては、自治体からの依頼を受けて各婦人会の会員で作成したり、独自に活動を立ち上げたりしています。いずれも小学校や社会福祉協議会などに寄附しました。

また、千羽鶴を折り、一刻も早いコロナ終息を願ったという報告がありました。すべてをご紹介できませんが、いくつかの活動を報告します。

〈塩釜婦人団体連絡協議会〉

市役所から布マスク制作の要請を受け、新入生のために200枚を作成し、市長に贈呈しました。また、小中学校の入学式の模様と一緒に広報誌に紹介されました（写真1）。

みんなで乗り越える

国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市内は今までに無い春を迎えています。たくさんの方に市の感染予防対策に協力いただいています。



塩釜婦人団体連絡協議会の方々が、市内の新入生のために、布マスクの制作を引き受けてくださいました。完成した約200枚が市長へ手渡されました。
(4月7日 市役所)



市内小中学校の入学式は、マスクの着用、児童生徒の座る間隔を空けて式典を大幅に短縮するなどの感染予防策を講じて行われました。
(4月8日 第三小学校)

広報しおがま2020年5月号 — 8

写真1 贈呈式の写真（左側） 広報しおがま5月号8pより

〈大崎市三本木地域婦人会〉

6月30日、大崎市三本木総合支所の正面玄関に七夕飾りが展示されました。これは、三本木地域婦人会の会員約70名が一羽一羽に新型コロナウイルス感染症の早急な終息を願って千羽鶴を作り、届けました。写真は、この報告書のためにわざわざ記録写真として撮影いただきました（写真2）。

今年は、夏まつりなどイベントが中止され、気持ちがなかなか晴れませんが、この千羽鶴を通した婦人会員の思いが、地域に元気を届けています。



写真2 七夕飾りの前に集まり、大友会長（左端）ほか役員で撮影（8/27）

〈多賀城市婦人会連合会〉

多賀城市では、まず、活動を実施する前に、必要な感染対策を万全にするところから始めました。今まで準備していなかった体温計を会として購入し、活動時のマニュアルに「検温の実施・マスク・手洗い・消毒」などの感染症対策を盛り込みました。もちろん、会議や講演会などでは、3密を避けるため、今まで使用していた会場の3倍の広さ（収容人数を参加者数の3倍に設定）を確保するなど、細かくチェックできるようにしました。

それを踏まえて、ボランティアでマスクを作り、小学校へ寄附しました。また、活動資金を得るため、会では販売事業も実施していますが、その際もマスクや手袋を着用するなど少しずつですが、活動も自粛ムードがなくなりつつあります。

現在は、お互いに気づいた情報や気を付けることなどを共有しながら、特定健診が9月から始まるので、そのお手伝いを予定しています。